

2025 年度 工学院大学エコ推進委員会 総括

工学院大学エコ推進委員会

委員長 宮本壮祐



③学外活動

本会の環境問題に対する知識や活動のアイデアをより深いものにすることを目的としている。外部で行われている環境保全に関する活動に参加をし、活動に対する新たな知見を得た。

④学園祭でのエコデーションの設置

ブレ八王子祭・八王子祭・新宿祭においてゴミの分別回収を行い、学生や来場者の分別意識向上を目的として活動を行った。本会はゴミの具体的な分別方法と呼び掛け、実際の分別はゴミを捨てに来た学生や来場者に直接行ってもらう形で実施した。今年度も学園祭期間中に発生した廃油をリサイクル業者へ引き渡すことができ、限りある資源を無駄にしない取り組みを行った。

また、本委員会のみでは人員が不足するため、他団体へ協力を依頼しながら活動を行い、例年と同程度の規模でエコデーションを運営した。

⑤環境改善の促進

キャンパス内やキャンパス付近の景観の改善、本学学生の施設利用に関するマナーの向上を目的とした。本活動は学生自治会常任委員会、学生支援課と連携して行い、八王子キャンパスの近隣住民と交流を図りながら学外の清掃を行い、地域に貢献をする地域清掃を行った。

4. 2025年度総括

今年度は、エコキャップ・コンタクトレンズケース回収活動や学園祭でのエコデーションの設置、広報活動などを通して、学生や来場者に対して環境問題への関心や分別意識の向上を図る活動を行った。これらの活動を通して、環境問題について身近に考えるきっかけを提供した。また、広報活動ではSNSやポスター掲示を活用することで、委員会の活動をより多くの学生に周知した。さらに、学外活動への参加を通して環境問題に関する知識を深めた。

一方で、エコキャップやコンタクトレンズケースの分別が十分に行われていない場面も見られたため、分別方法の周知や回収ボックスの表示方法などの工夫が今後の課題である。また、本会のみでは人員が不足する場面もあり、他団体の協力を得ながら活動を行う必要があった。

1. 2025年度活動目標

本会は、「本会が問題解決の方策を提示し、実際の問題解決は全学生で行う。」という活動スローガンのもと、学生の環境問題への興味・関心を高めることを目的として活動を行う。活動は本会独自のプロジェクトである「KU-SEM Project (KOGAKUIN University Student Environmental Management)」を中心に、環境マネジメントシステムの継続的改善サイクル (PDCA サイクル) に基づき実施する。

具体的には、エコキャップ・コンタクトレンズケースプロジェクト、委員会広報を用いた情報発信、学外活動への参加、学園祭におけるエコデーションの設置、地域清掃などの環境改善活動を行う。これらの活動を通して、学生に対して環境問題への関心を持ってもらうとともに、日常生活の中で環境保全を意識するきっかけを提供することを目指す。

また、今年度は環境活動を行う他団体との交流や新入生の獲得にも力を入れ、委員会の活動をより多くの学生に知ってもらうための取り組みを進める。

2. 組織体

総人数：7名(1年生:1名、2年生:6名、3年生:0名)

執行部：3名(委員長:1名、八王子支部長:1名、会計:1名)

活動場所：八王子キャンパス(18-309)

3. 活動成果

①エコキャップ、コンタクトレンズケースリサイクルプロジェクト

学内に設置されているゴミ箱の横にペットボトルキャップ回収用ボックス及びコンタクトレンズケース回収用ボックスを設置し、ペットボトルキャップやコンタクトレンズケースの分別回収を行った。学生自らが分別を行うことで分別意識を持ってもらうことを目的として活動を行った。回収されたキャップやコンタクトレンズケースは本会が回収し、リサイクル材料として企業へ引き渡した。リサイクル材料として得られた資金は、発展途上国の子どもたちを救うワクチン支援へと活用された。

一方で、エコキャップおよびコンタクトレンズケースの分別が十分に行われていない場面も見られた。そのため、回収ボックスの表示方法や設置場所の工夫、ポスターやSNSを活用した周知などを行い、学生に対して分別方法をより分かりやすく伝えていく必要がある。

②委員会広報記事の作成

本会の活動報告を行い、本会の取り組みを幅広く周知するとともに、学生の環境に対する関心を高めることを目的として広報活動を行った。コンタクトレンズケース回収やエコキャッププロジェクトの結果、環境イベントの情報などを掲載し、写真を用いることで分かりやすい記事の作成を目指した。今年度はSNSも活用し、より多くの学生へ情報発信を行った。さらに、学内にも委員会活動に関するポスターを掲示することで、より多くの学生に本会の活動を認識してもらえよう努めた。